

平成 18 年 度

岩手医科大学大学院医学研究科

( 博士課程・修士課程 )

学 生 募 集 要 項

< 一 般 選 拔 >

< 社会人特別選拔 >

岩手医科大学大学院医学研究科

# 目 次

## 【博士課程】

大学院医学研究科（博士課程）募集要項 .....	1
大学院医学研究科概要 .....	4
博士課程の組織および専攻内容（別表） .....	6
大学院医学研究科入学願書（博士課程） .....	17
履歴書 .....	18
志望理由書 .....	19
受験票（博士課程）	

## 【修士課程】

大学院医学研究科（修士課程）募集要項 .....	21
大学院医学研究科医科学専攻概要 .....	24
修士課程の組織および専攻内容（別表） .....	26
大学院医学研究科入学願書（修士課程） .....	29
履歴書 .....	30
志望理由書 .....	31
受験票（修士課程）	

問合せ・資料請求先

〒020 - 8505

盛岡市内丸19番1号

岩手医科大学 医学部教務課

T E L 019 - 651 - 5111 内線 3221・3223

F A X 019 - 651 - 8055

( <http://www.iwate-med.ac.jp/> )

## 大学院医学研究科（博士課程）

# 岩手医科大学大学院医学研究科学生募集要項 ( 博士課程 )

## 1 募集人員 50名 ( 社会人特別選抜含む )

入学志願者は専攻学科目を第3志望まで選ぶことができます。

専攻名	入学定員	専攻別学科目
生理系	6名	解剖学第一、解剖学第二、生理学第一、生理学第二、生化学、薬理学、サイクロトロン医学、医用工学、電子顕微鏡医学
病理系	3名	病理学第一、病理学第二、細菌学、臨床病理学
社会医学系	2名	衛生学・公衆衛生学、法医学
内科系	20名	内科学第一、内科学第二、内科学第三、神経内科学、糖尿病代謝学、血液病学、神経精神科学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床検査医学
外科系	19名	外科学第一、脳神経外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、整形外科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産婦人科学、麻酔学、形成外科学、救急医学、高気圧環境医学

## 2 出願・入学資格

出願・入学できるのは次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学(医学、歯学又は獣医学の課程)を卒業した者(平成18年3月卒業見込み者を含む)
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学又は獣医学の課程)を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
  - (イ) 旧大学令(大正7年勅令第388号)による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
  - (ロ) 防衛庁設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者
  - (ハ) 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者(学位規則の一部を改正する省令(昭和49年文部省令第29号)による改正前の学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1号に該当する者を含む)で大学院又は専攻科において、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
  - (ニ) 大学(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を除く)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

その他、本大学院が大学(医学、歯学又は獣医学の課程)を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

備考

- 1) 社会人特別選抜に出願できるのは、「2. 出願・入学資格」の各号のいずれかに該当する方で、医療関係分野(臨床研修医を含む)官公庁、企業等に勤務あるいは勤務予定の方です。
- 2) なお、臨床研修医に関しては、研修期間中は年間2単位以上の取得が可能で、かつ研修修了後は本学での研究に専従することを原則とする。
- 3) その他の社会人入学者に関しては、勤務等を勘案の上、カリキュラムを編成します。社会医学系、内科系、外科系の専攻を志願して入学試験に合格した者が、平成18年2月実施の医師国家試験に不合格となった場合は入学を取り消します。

### 3 出願期間

平成17年10月31日 から平成17年11月25日 まで。(必着)

### 4 出願手続

出願にあたって、受験希望者は予め第1志望の学科目の担当責任者と連絡を取り、研究テーマ等についての説明を受けてください。

入学願書	本学研究科所定様式
成績証明書	出身大学(学部)長の発行する所定様式の証明書 ただし、本学医学部卒業(見込)者は不要
志望理由書	本学研究科所定様式
卒業(見込)証明書	本学卒業(見込)者は不要
修士課程修了(見込)証明書・成績証明書	修士課程修了(見込)者は修了証明書および成績証明書を提出
医師免許取得者	医師免許または歯科医師免許取得者はその写しを提出
写 真	出願3ヶ月以内に撮影したもの2枚 ・無帽、上半身、正面、縦3cm×横3cmで裏面に氏名を記入 ・うち1枚は、入学願書に貼付
入学検定料	40,000円 郵送の場合は郵便普通為替にし、受取人指定欄は記入しないこと
受験許可書	出願時に医療関係分野、官公庁、企業等に在職中の方若しくは勤務予定の方は、当該所属長の受験許可書を提出(様式は随意)
受験票	本要項に添付してある受験票に 欄以外の項目を記載のうえ提出
受験票送付返信用封筒	定型封筒に宛先を明記し、430円切手(簡易書留料金)を添付して提出 ただし、入学願書持参の方は不要

### 5 出願場所

岩手医科大学医学部教務課 〒020-8505 盛岡市内丸19番1号

### 6 試験期日および試験場

<一般選抜>

期 日	区 分	時 間	試験科目	試験場
平成17年12月9日	外国語試験	13:00~14:30	英 語	記念館9階2番講義室
	専 門 試 験	14:45~		第1志望の専攻学科目の研究室

- ・受験者は、試験当日午後12時30分までに試験場(記念館9階2番講義室)に集合してください。
- ・専門試験は口答または筆記試験で、第1志望の専攻学科目について行います。
- ・外国語試験は辞書の持ち込みを認めます。(ただし、医学辞書および電子辞書は不可)

< 社会人特別選抜 >

期 日	区 分	時 間	試験科目	試験場
平成17年12月 9 日	外国語試験	13 : 00 ~ 14 : 30	英 語	記念館 9 階 2 番講義室
	小 論 文	14 : 45 ~ 15 : 45		記念館 9 階 2 番講義室
	専 門 試 験	16 : 00 ~		第 1 志望の専攻学科目 の研究室

- ・ 受験者は、試験当日午後12時30分までに試験場（記念館 9 階 2 番講義室）に集合してください。
- ・ 専門試験は口答または筆記試験で、第 1 志望の専攻学科目について行います。
- ・ 外国語試験は辞書の持ち込みを認めます。（ただし、医学辞書および電子辞書は不可）

7 受験票

受験票は、各志願者から提出された封筒で郵送します。

受験票は、試験場に必ずご持参ください。

8 合格の決定および発表

合格者の決定 学科試験および出身大学の成績を総合して判定します。

合格者の発表 平成17年12月21日 18時頃、本学学事掲示板に合格者の受験番号を掲示するほか、本人に合格通知書および入学手続書類を郵送します。

9 注意事項

願書受付後は、提出した書類及び入学検定料は、いかなる事由があっても返還しません。

郵送により出願する場合は、必ず書留郵便とし、封筒に「大学院医学研究科入学願書在中」と朱書してください。

10 入学手続

合格者は、平成18年 1 月16日 ~ 1 月27日 午後 5 時までに、入学手続書類を医学部教務課へ提出してください。

〒020 - 8505 盛岡市内丸19番 1 号 岩手医科大学 医学部教務課

TEL 019 - 651 - 5111 (内線3221・3223) FAX 019 - 651 - 8055

11 出願書類等（様式）のダウンロード

出願書類等は、本学ホームページからダウンロードできます。

下記書類の提出に際しては、指定の用紙サイズを遵守してください。

入学願書 ( A 4 サイズ )

履歴書 ( A 4 サイズ )

志望理由書 ( A 4 サイズ )

受験票 ( 官製ハガキ )

岩手医科大学ホームページ ( <http://www.iwate-med.ac.jp/> )

# 岩手医科大学大学院医学研究科概要

## 1 目的および使命

本大学院は医学に関する学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を極めて文化の発展に寄与することを目的及び使命とします。

## 2 修業年限

博士課程 4年（標準修業年限）

ただし、優れた研究業績をあげたと認められた者については、3年以上在学すれば足りるものとします。

## 3 組織および専攻内容

別表のとおりです。

## 4 履修の方法

学生は、所定の期間内に専攻別学科目の責任者の指示により、次に定める科目を含めて30単位以上を取得しなければなりません。

単位取得の認定は、試験あるいは実習、実験報告によって行います。

1. 主科目 24単位以上

2. 関連科目 6単位以上

## 5 昼夜開講（大学院設置基準第14条による教育方法の特例）による履修及び研究

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっており、社会人が最新の医学知識・技術を学び、高度の医学研究（臨床）能力を身に付けることを可能にするため昼夜開講制を採用しております。

昼夜開講制とは、夜間（18：00～21：10）や特定の時間（時期）に授業・研究指導の時間を設け、現在、地域医療に携わっている開業医や病院勤務医、医学及び関連分野の研究者等の社会人が大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くするための制度です。

- ・臨床研修医は夜間または土曜日の講義・演習（1回 1時間30分）に年間20回以上（1日に講義を複数回受講することは可能）出席することが義務づけられます。
- ・臨床研修医以外の社会人入学者のカリキュラムは、夜間、土・日及び社会人の多くが休暇等をまとめてとり易い夏季休暇期間等に設定し、単位を修得しやすいように配慮します（授業科目の履修は研究指導教員と十分話し合いその指示を受けてください）。
- ・カリキュラムについてご不明の点は医学部教務課にご相談ください。

時 限	授 業 時 間	備 考
1	8：50 ～ 10：20	通常の授業時間帯
2	10：30 ～ 12：00	
3	13：00 ～ 14：30	
4	14：40 ～ 16：10	
5	18：00 ～ 19：30	特例による授業時間帯
6	19：40 ～ 21：10	

#### 【大学院設置基準第14条】

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

#### 6 学位授与

本研究科に4年以上在学し、所定の科目を履修して研究科の定める単位を取得し、さらに独創的論文を提出して、論文審査および学位論文を中心とした最終試験に合格した者に対して博士（医学）の学位を授与します。

#### 7 学納金

学納金は次のとおりです。

- 1．入学金           200,000円（入学時のみ）
- 2．授業料           850,000円（年額）
- 3．施設整備費    300,000円（入学時のみ）   ただし、本学を卒業した者からは徴収しません。

#### 8 奨学金制度

日本学生支援機構大学院奨学金月額122,000円（平成17年度現在）および岩手医科大学大学院奨学金（月額25,000円）の制度があります。

## 組織および専攻内容

生理系：入学定員6名

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
解剖学第一	人 見 次 郎	1. 血管発生および血管網形成機構の解析 2. 組織幹細胞の同定と機能解析 3. 末梢神経網形成機構の解析 4. 脊椎動物の末梢神経系および血管系の比較解剖学
解剖学第二	佐 藤 洋 一	1. 細胞内情報伝達系の可視化(種々の細胞・組織を使用) 2. 神経組織の修復・再生メカニズム 3. 虚血と神経細胞死 4. 中脳諸核の線維連絡
生理学第一	佐々木 和 彦	1. 中枢及び末梢神経のシナプス伝達における presynaptic ならびに postsynaptic mechanism 2. 細胞内情報伝達機構の電気生理学的研究 3. 血管平滑筋の生理学と薬理学 4. 種々の mRNA を卵細胞内に注入して発現させた receptor や ion channel の電気生理学的、分子生物学的研究 5. 神経細胞膜の受容体や ion channel の物理化学、薬理学、電気生理学的研究
生理学第二	久保川 学	1. 腎臓による体液・電解質調節メカニズム 2. 腎尿細管イオンチャネルの発現と活性調節に関する分子生理学的研究 3. 上皮膜組織における物質輸送担体の研究 4. 各種ホルモンによる細胞機能調節 5. 分子生物学的手法を用いた細胞内生理活性物質の解析
生 化 学	堀 内 三 郎	1. 間葉系細胞の遺伝子発現調節機構 1) 炎症性サイトカインによる軟骨細胞特異的遺伝子発現の調節機構 2) 軟骨細胞の接着分子遺伝子発現の調節機構 2. 塩基除去修復タンパク質 XRCC1 の分子生物学的研究 3. 肝癌培養細胞における PHBP の遺伝子発現とその機能解析
薬 理 学	平 英 一	1. 神経機能の分子生物学的研究 2. 細胞接着と細胞運動機構の研究 3. 細胞内情報伝達機構の研究
サイクロトロン 医 学	世 良 耕 一 郎	1. 加速器、主にサイクロトロンを用いた、物理、医学、その他自然科学全般にわたる分野における高エネルギーを利用した研究(加速器科学分野における研究) 加速器科学の中でも、PET(陽電子核医学)のための定量法、校正法の開発、及びPIXE(イオン励起微量分析法)における測定・解析・定量法の開発を主に手がけている。後者においては、特に医学・生物学試料のための分析法の開発を行い、全ての試料の定量分析

学 科 目	担 当 責 任 者	主 な 研 究 内 容
		<p>を可能とした。また独自に開発を行った方法が、世界の多くの地域における「有害元素の広域的環境汚染とそれに伴う人体暴露評価」のための研究プロジェクトに採用され、国連の各機関を初めとする多くの外部機関との共同研究を行っている。</p>
医 用 工 学	三 田 光 男	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心電・筋電・脳波・脈波・呼吸器信号などの生体信号導出における計測モデルの基礎研究</li> <li>2. 多重・同期系列化標本による統計的フーリエ変換法の解析条件に関する基礎研究</li> <li>3. 時間スケール変換による生体信号のマッチング計測に関する基礎研究</li> <li>4. ランダムな生体2信号の相互関連を統計的フーリエ変換から抽出するための基礎研究</li> <li>5. 時間スケール変換と統計的フーリエ変換法の組み合わせによる医学応用研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>信号の符号化による高効率な生体情報の圧縮記録法および情報伝送法</li> <li>論理フィルタの構成によって高分解能に信号の診断情報を集約する方法</li> <li>心電信号から、基線動揺あるいは呼吸器信号を分離計測する方法</li> <li>生体信号あるいは計測におけるゆらぎに対応した情報収集および解析法</li> </ul> </li> <li>6. 統計的フーリエ変換法による因子分析、多変量解析への医学応用研究</li> <li>7. 時間及び計測スケール変換と統計的フーリエ変換のアルゴリズムによるメカニカルな介護・医療機器のモデリングに関する基礎研究</li> </ol>
電 子 顕 微 鏡 医 学	遠 山 稿 二 郎	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 凍結手法を主軸としたナノ・サブナノレベルの超微細構造解析</li> <li>2. 凍結電顕法によるシナプスの超微細形態と関連分子局在の解析</li> <li>3. 神経の再生と軸索伸長抑制因子の超微局在</li> <li>4. 神経親和性ウイルスを用いた皮質ローカルサーキットのイメージング</li> <li>5. 各種細胞マーカーを用いた細胞構築機能学</li> </ol>

病理系：入学定員3名

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
病理学第一	澤 井 高 志	1．炎症・免疫変性の病理学 1) 関節リウマチ、変形性関節症、骨疾患 2) 血管炎 3) 間質性肺炎 / 肺線維症 4) マトリックスの病理学 2．ウイルス感染による免疫異常 3．循環の病理学 1) 肺高血圧症 2) 動脈硬化 3) 血管内皮生物学 4．中枢神経系の病理学 上記に関し、免疫組織化学、 <i>in situ</i> hybridizationなどの形態解析の他に培養実験、遺伝子導入、遺伝子発現解析、細胞動態の解析、ELISA/HPLCによる蛋白・糖などの定量的な解析も行っている。
病理学第二	増 田 友 之	1．肝臓病理（肝疾患、腫瘍） 2．血液造血器、リンパ網内系組織の病理 3．消化器癌 4．心筋炎、心筋症、動脈硬化の病理 5．腎の病理（糸球体腎炎） 6．小児の消化器病理 7．骨軟部腫瘍 8．皮膚腫瘍 上記に関し、顕微鏡、電顕（透過型、走査型）、組織化学、免疫組織化学、画像解析、細胞培養、分子生物学的手法（プロテオーム解析、生体内分子間相互作用解析装置、標準的な細胞生物学的手法）を用いて研究を行っている。
細菌学	佐 藤 成 大	・細菌学 1．腸管出血性大腸菌感染症の病因・診断などに関する研究 ・ウイルス学・免疫学 2．リコンビナントBCGワクチンのウイルス学への応用
臨床病理学	中 村 眞 一	1．臨床病理学的研究 2．消化器腫瘍の研究 1) 腺管分離法 2) 腫瘍に関わる遺伝子解析 3) 腫瘍のDNA量の研究 4) Comparative genomic hybridization 3．細胞診断 4．遠隔病理診断

社会医学系：入学定員2名

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
衛生学・ 公衆衛生学	坂 田 清 美	1. 高コレステロール血症、高血圧、耐糖能異常、喫煙の疫学及びその健康教育 2. 循環器疾患の要因、推移及び地域差に関する疫学 3. フッ素及び微量元素の生体影響に関する研究 4. 産業衛生 5. 地域保健の役割に関する研究 6. 臨床疫学
法 医 学	青 木 康 博	1. DNA多型に関する研究 2. 血液・体液中の遺伝形質に関する法医学的及び集団遺伝学的研究 3. 法医学的試料の組織細胞化学的研究

内科系：入学定員20名

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
内科学第一	鈴 木 一 幸	1. 消化管悪性腫瘍の早期診断および内視鏡治療に関する研究 2. 消化管悪性腫瘍の組織発生および悪性化に関する研究 3. 慢性胃炎の研究 - 胃癌との関連、実験胃炎、腸上皮化生、胃粘膜と免疫 - 4. 消化性潰瘍に関する実験的・臨床的研究 - 治療と再発防止および Helicobacter pylori について 5. 消化器集団検診に関する研究 6. 炎症性腸疾患の病態と治療に関する研究 7. 消化管の運動機能に関する研究 8. 肝炎ウイルスの遺伝子学的検討 9. B型およびC型肝炎に関する臨床病理学的研究 10. 肝細胞障害と肝再生に関する基礎的研究 11. 肝不全におけるアミノ酸・アンモニア代謝、炎症性サイトカインに関する研究 12. 肝性脳症の発生機序、病態に関する研究 13. 重症肝疾患の血液凝固線溶動態に関する研究 14. 原発性肝癌の臨床病理学的研究
内科学第二	中 村 元 行	1. 心不全の病態と治療に関する研究 2. 病的心の形態と機能および代謝に関する研究 3. 虚血性心疾患の成因・病態・診断・治療・予防に関する研究 4. 心疾患の薬物療法に関する研究 5. 心疾患の内科的侵襲的治療法に関する研究 6. 心疾患患者のリハビリテーションに関する研究 7. 心機能の評価に関する研究 8. 心疾患の救急治療および集中治療に関する研究 9. 不整脈の病態と治療に関する研究

学 科 目	担 当 責 任 者	主 な 研 究 内 容
内科学第二	中 村 元 行	10. 脈管疾患の病態・診断・治療に関する研究 11. 脈管学的検索による高血圧・動脈硬化の研究 12. 腎および内分泌に関する高血圧の研究 13. 本態性高血圧の成因・病態・診断・治療・予防に関する研究 14. 電子的ネットワーク医療の利用についての研究 15. 循環器疾患の予防とスクリーニング
内科学第三	井 上 洋 西	1. 早期肺病変の検出と治療に関する研究 2. 気管支・肺胞上皮の再生と修復に関する研究 3. 呼吸器疾患の増悪の病態と治療に関する研究 4. 非アトピー性喘息の原因遺伝子に関する研究 5. 気管支喘息のリモデリングとその治療に関する研究 6. 慢性閉塞性肺疾患の病態と治療に関する研究 7. 肺癌の免疫療法・遺伝子治療に関する研究 8. 肺線維症の病態と治療に関する研究 9. 睡眠時無呼吸症候群の病態と治療に関する研究 10. 膠原病の病態と治療に関する研究 11. 心身症の病態と治療に関する研究 11. 実効的な禁煙指導法の開発に関する研究
神経内科学	寺 山 靖 夫	1. 脳血管障害の成因と予防、治療および疫学に関する研究。特に血小板機能、凝固線溶系、プロスタグランジン系および脳循環代謝 (SPECT、PET) の研究。頸部血管超音波診断および脈波伝播速度、Ankle-Brachial Index (ABI) を指標とする閉塞性動脈硬化症など全身性動脈硬化と脳血管障害の関係に関する検討。超高磁場MRIを用いた頭蓋内動脈の血管壁および血栓の評価。 2. 低酸素性神経細胞障害とその抑制に関する研究。とくに低酸素性神経細胞障害のアンギオテンシン による増強とアンギオテンシン受容体拮抗薬による抑制効果。 3. 老年期痴呆 (アルツハイマー病と脳血管性痴呆) の病態、予防、治療。神経細胞におけるニコチン性アセチルコリン受容体 7 の発現と神経細胞形質の研究。フリーラジカル・酸化ストレスに関する研究。PET、SPECTを用いたレオロジー的研究、酸素代謝、糖代謝、神経伝達物質の検討。超高磁場MRI Inversion recovery法による灰白質強調画像、高分解能異方性拡散画像を用いた形態学的、機能的な研究。 4. パーキンソン病など錐体外路系疾患の成因と治療。とくに高速液体クロマトグラフィー (Neurochem) を用いた神経伝達物質、NO代謝産物、ニトロチロシンなどの研究。超高磁場MRI灰白質強調画像を用いたパーキンソン病中脳黒質の評価。 5. 重症筋無力症 (MG) の病態と治療。MGに合併する過形成胸腺の病態。MGに対する免疫抑制薬FK506の有効性の研究。 6. 頭痛の病態および疫学に関する研究。 7. 二次元脳波を用いた大脳高次機能の研究。

学 科 目	担 当 責 任 者	主 な 研 究 内 容
糖尿病代謝学	佐 藤 譲	1. インスリン抵抗性に及ぼす肝および筋肉内脂肪の影響の臨床的研究 2. メタボリックシンドロームにおける脂肪肝の役割の研究 3. 脂肪肝の治療薬の研究 4. 炎症性サイトカイン遺伝子多型と糖尿病および糖尿病合併症の関連の解析 5. 糖尿病患者におけるアディポサイトカイン産生制御の臨床的研究 6. 2型糖尿病発症における危険因子の疫学的研究 7. 軽症糖尿病の適正な治療法の研究
血液病学	石 田 陽 治	1. 造血器悪性腫瘍に対する化学療法 2. 造血器悪性腫瘍における感染症の研究 3. 幹細胞移植による造血器悪性腫瘍・固形癌の治療 4. 造血器悪性腫瘍の寛解期における残存病変の解析 5. 造血器悪性腫瘍の薬剤耐性に関する研究 6. クロナリティを用いた血液疾患の病因・病態の解析 7. 骨髄異形成症候群の無効造血に関する研究 8. 血球分化におけるシグナル伝達の解析 9. 造血特に巨核球・血小板産生機構に関する研究 10. 血小板膜蛋白と血管内皮の相互作用に関する研究
神経精神科学	酒 井 明 夫	. 神経生物学 1) 大脳白質グリア細胞の比較解剖学 2) 精神障害における大脳白質の形態学 3) 精神症状・精神病理学に対応するCNS画像所見 . 多文化間精神医学と文化精神医学 1) 海外在留邦人と在日外国人のメンタルヘルス調査・分析 2) 文化結合症候群に関する実態調査と概念分析 . 精神科救急医学 1) 精神科救急医療と地域精神医療との統合的研究 2) 救急医療における自殺企図者の精神病理学 3) 精神科救急における薬物療法 . 老年精神医学 1) 遅発性精神病に関する症候論的検討 . 社会精神医学 1) 自殺と地域精神保健に関する疫学 2) 海外勤務者の産業精神医学 3) 産業精神保健と予防精神医学に関する分析・調査 . 精神医学史 1) 古代ギリシア由来の症状概念の歴史的考察 2) 統合失調症の起源と病態に関する通時的検討 . 医学哲学と医療倫理 1) 精神医療におけるインフォームド・コンセントと同意能力 2) 精神障害者のQOL

学 科 目	担 当 責 任 者	主 な 研 究 内 容
神経精神科学	酒 井 明 夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神病理学</li> <li>1) 統合失調症における認知機能の変化</li> <li>2) 言語幻聴と音楽幻聴の症候論</li> </ul>
小 児 科 学	千 田 勝 一	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 肺サーファクタントの研究</li> <li>2. 新生児呼吸適応障害の研究</li> <li>3. 新生児循環動態の研究</li> <li>4. 小児の成長と神経発達の研究</li> <li>5. 循環器疾患の機能診断に関する研究</li> <li>6. 幹細胞移植の研究</li> <li>7. 小児がん治療の多施設共同研究</li> <li>8. 小児内分泌学の研究</li> <li>9. 小児感染症の研究</li> <li>10. 小児神経学の研究</li> <li>11. 小児消化器病学の研究</li> <li>12. 小児腎臓病学の研究</li> </ul>
皮 膚 科 学	赤 坂 俊 英	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 悪性黒色腫の転移機序、特に黒色腫細胞運動能とそのsignal transduction protein</li> <li>2. 悪性黒色腫細胞の細胞接着と接着分子</li> <li>3. 正常色素細胞の運動能と色素再生機序</li> <li>4. 上皮細胞と色素細胞の共生の機序</li> <li>5. 創傷治癒過程での表皮細胞の遊走とintegrin、cadherinの関与</li> <li>6. アディポサイトカインの創傷治癒に及ぼす影響の解析</li> <li>7. 皮膚悪性腫瘍の細胞活性と細胞内シグナル伝達</li> <li>8. 細胞内シグナル伝達因子をターゲットにした悪性黒色腫治療薬の開発</li> <li>9. 血管内腫細胞抑制をもたらすアディポサイトカイン療法の開発</li> <li>10. カーボンナノチューブを用いた皮膚悪性腫瘍治療の開発</li> <li>11. 抗悪性腫瘍剤の効果発現コントロールを目指したフリーラジカル定量法の確立</li> </ul>
放射線医学	江 原 茂	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 骨関節の画像診断に関する研究</li> <li>2. MRIによる大脳辺縁系の解析</li> <li>3. MRIによる顎関節の動態解析</li> <li>4. MRI、CTによる心大血管系疾患に関する研究</li> <li>5. MRI撮影法に関する基礎的、臨床的研究</li> <li>6. IVR ( interventional radiology ) に関する研究</li> <li>7. 悪性腫瘍の放射線治療に関する研究</li> </ul>
臨床検査医学	諏訪部 章	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 検査情報の患者への還元に関する研究</li> <li>2. 肺サーファクタント代謝に関する研究</li> <li>3. 肺傷害発生とその防止に関する研究</li> <li>4. 心磁計の開発と臨床応用に関する研究</li> <li>5. 心血管疾患の成因に関わる遺伝子型に関する研究</li> <li>6. 腎疾患の病態と腎機能検査</li> </ul>

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
臨床検査医学	諏訪部 章	7. 輸血と免疫変調 8. 輸血医学、臨床の総合的研究 9. 血球の膜形成と機能に関する研究 10. PIXEによる生体中の微量元素分析

外科系：入学定員19名

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
外科学第一	若 林 剛	1. 甲状腺上皮小体疾患の病態生理、診断、治療（内視鏡下手術含）に関する研究 2. 消化器癌（食道・胃・大腸・肝・胆・膵）の病態生理、診断、治療に関する研究 3. 食道良性疾患の病態生理、診断、治療に関する研究 4. 消化性潰瘍及び穿孔例の病態生理、診断、治療に関する研究 5. 胆石症、膵石症の病態生理、成因診断、治療に関する研究 6. 乳癌の病態生理、診断、治療に関する研究 7. 特殊病態下における高カロリー輸液及び栄養に関する研究 8. 術後代謝及び侵襲に関する研究 9. 薬剤感受性を応用した癌化学療法に関する研究 10. 外科的感染症及び院内感染予防に関する研究 11. 腹（胸）腔鏡下手術法に関する研究
脳神経外科学	小 川 彰	1. 脳梗塞の病態生理と血行再建術の適応に関するランダム比較試験 2. 脳血管攣縮の予防と治療に関する実験的及び臨床的研究 3. 脳腫瘍の遺伝子解析と放射線治療・化学療法に関する研究 4. 高血圧性脳内出血の病態と治療に関する研究 5. 脳循環代謝からみた脳疾患の病態生理に関する研究 6. PETによる脳循環及脳代謝に関する研究 7. PET(PIXE)による頭蓋内疾患の質的診断に関する研究 8. 脳血管攣縮の病態に関する実験的研究 - 凝固・炎症系からのアプローチ - 9. 中枢神経の組織修復と移植に関する実験的研究 10. 超音波ドップラーの臨床応用に関する研究 11. 頭蓋底手術における脳局所解剖と手術法に関する研究 12. 脳疾患の超早期診断法の開発に関する研究 13. 超高磁場MRI（3.0T）による脳機能解析
心臓血管外科学	川 副 浩 平	1. 超低体温循環停止法の研究 2. 体外循環の研究 3. 先天性心疾患の外科療法 4. 虚血性心疾患の外科療法 5. 弁膜症の外科療法 6. 大動脈瘤の外科療法

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
心臓血管外科学	川 副 浩 平	7. 不整脈の外科療法 8. 心不全に対する外科治療 9. 末梢血管外科に関する研究 10. 小児外科に関する研究 11. 止血・血栓の研究 12. 人工材料・生体材料の研究
呼吸器外科学	谷 田 達 男	1. 肺循環の生理学 2. 肺癌の外科治療 3. 胸管リンパ流の動態究明
整形外科科学	嶋 村 正	1. 関節リウマチの免疫組織学的・遺伝子発現的検討 2. 関節軟骨滑膜代謝影響因子の遺伝子発現的検討 3. 悪性四肢骨・軟部腫瘍に対する機能再建 4. BMP isoformとその応答反応の遺伝子発現的検討 5. 椎間板軟骨代謝の遺伝子発現的検討 6. 絞扼性神経障害術後回復過程の神経伝導変化 7. 悪性骨・軟部腫瘍患者の機能予後への影響因子 8. 復元的脊柱展開・再建の方法と材料の開発 9. 腱・腱鞘間滑動性抵抗の力学的解析 10. 膝靭帯再建後の半月板、移植骨・軟骨の経時的変化
泌尿器科学	藤 岡 知 昭	1. 悪性腫瘍の診断、治療 1) 腎癌に対するネフロン温存手術と拡大手術 2) 膀胱癌に対するゲノム情報を基にした個別化術前化学療法の研究 3) 前立腺癌の集団検診 2. 悪性腫瘍の病態に関する研究 1) 担癌生体の免疫動態に関する研究 2) 腫瘍血管新生に関する研究 3) 活性型ビタミンD <sub>3</sub> に関する研究 3. 腎不全、腎移植、腎循環に関する研究 1) 免疫抑制剤と腎機能に関する研究 2) 死体腎移植、臓器保存に関する研究 3) 後天性のう胞腎の発生および癌化についての研究 4. 糸球体腎炎の診断学に関する研究 5. 尿路悪性腫瘍の分子遺伝子学的研究 1) 癌抑制遺伝子異常の研究 2) 遺伝子異常の研究 6. 癌遺伝子導入動物を用いた研究 1) 導入遺伝子の作製 2) 導入遺伝子機能の解析 3) 小児先天性腎尿路疾患に関する研究 4) 腎機能障害進展の早期診断法および進展予防法の研究

学 科 目	担当責任者	主 な 研 究 内 容
眼 科 学	黒 坂 大 次 郎	1 . エキシマレーザによる角膜屈折手術に関する研究 2 . 角膜移植後の角膜形状に関する臨床的研究 3 . 角膜上皮のカルシウム動態に関する基礎的研究 4 . 白内障極小切開手術後の視機能ならびに角膜形状に関する臨床的研究 5 . 眼部創傷治癒機構に関する基礎的研究 6 . 加齢黄斑変性に対する光線力学的療法後の視機能に関する臨床的研究 7 . 網膜電気電図および眼底造影を用いた網脈絡膜疾患の病態に関する臨床的研究 8 . 糖尿病網膜症における増殖因子に関する臨床的研究 9 . 網膜色素変性の病態および治療に関する基礎的研究 10 . 視神経疾患および緑内障の網膜電図に関する臨床的研究 11 . 視神経障害時の網膜電図変化に関する基礎的研究
耳鼻咽喉科学	佐 藤 宏 昭	1 . 小児における難聴、言語障害の原因とその発生予防に関する研究 2 . 聴覚言語情報処理に関する研究 3 . GERD（胃食道逆流症）と中耳疾患の関連についての研究 4 . 中耳疾患の診断治療に関する研究 5 . 難聴と補聴、特に人工内耳の研究 6 . 耳鼻咽喉科領域悪性腫瘍の疫学、診断学、治療学ならびにその発生原因の究明に関する研究 7 . 鼻疾患、特にアレルギー性鼻炎の臨床的研究 8 . 急性感音難聴の臨床的研究 9 . 聴覚の老化に関する臨床的研究
産婦人科学	杉 山 徹	1 . 女性性器腫瘍の発生、増殖・転移に関する細胞生物学的研究 2 . 内分泌活性腫瘍細胞の増殖・分化とホルモンの調節機構 3 . ハイリスク妊娠、分娩と胎児・新生児の異常 4 . 婦人科癌に対する癌化学療法・分子標的療法の確立に関する研究 5 . 子宮内膜および卵巣の生理、病態と細胞組織化学的研究 6 . 癌細胞観察のための計量化・自動化及び多角的パラメーターの開発に関する研究 7 . 癌および先天異常の遺伝子診断に関する研究 8 . 胎児出生前診断に関する研究 9 . 胎内治療に関する臨床研究
麻 酔 学	鈴 木 健 二	1 . 周術期麻酔管理 1 ) 開胸手術の麻酔法および周術期の呼吸管理 2 ) 小児麻酔および周術期の呼吸管理 3 ) 脳外科手術の麻酔法および周術期の呼吸管理 4 ) 内視鏡下手術の呼吸循環動態に関する研究 5 ) 大手術時の呼吸循環動態に関する研究 6 ) 完全静脈麻酔法の研究 7 ) プロポフォールの麻酔機序に関する研究

学 科 目	担 当 責 任 者	主 な 研 究 内 容
麻 酔 学	鈴 木 健 二	8) 術中希釈式自己血輸血に関する研究 9) 周術期患者管理へのコンピュータ技術の応用 10) 術後疼痛対策に関する研究 2. 開心術の麻酔 1) 開心手術時のストレス反応と循環動態に関する研究 2) 麻酔薬の心筋保護作用に関する研究 3) 心筋虚血再灌流障害の解明および治療法に関する研究 4) 新生児肺高血圧症の病態に関する研究 5) 開心術後の疼痛治療に関する研究 3. 集中治療医学 1) 重症患者の呼吸管理法の研究 2) 呼吸管理中の肺ガス交換機能評価法の研究 3) MOFの研究 4. ペインクリニック 1) 終末医療に関する研究 2) 難治性疼痛対策に関する研究
形成外科学	小 林 誠 一 郎	1. 創傷治癒に関する研究 2. 筋移植の組織学的、生化学的研究 3. 唇顎口蓋裂の形態学的研究、臨床的研究 4. 頭蓋顎顔面先天異常に関する臨床的研究 5. 培養線維芽細胞の電気生理学的研究 6. 顔面骨骨延長とシミュレーションに関する研究 7. 可変形骨延長器の開発 8. 微小血管吻合による内膜治癒の促進 9. AVMの拡大に関する研究
救 急 医 学	遠 藤 重 厚	1. エンドトキシン血症の早期診断法の研究 2. 細菌感染症の早期診断法の開発に関する研究 3. 生体侵襲とサイトカインに関する研究 4. 多臓器不全の病態生理の解析に関する研究 5. 重症熱症におけるエンドトキシン、サイトカインに関する研究 6. 消化管穿孔の保存的治療に関する研究 7. 薬物中毒の病態生理の解析に関する研究 8. 脳低体温療法時の病態生理に関する研究 9. 頭部外傷患者のサイトカインに関する研究 10. 慢性硬膜下血腫におけるサイトカイン、成長因子に関する研究 11. 急性呼吸不全時のSP-A、SP-D、フォスホリパーゼA2の研究 12. ヘリコプター搬送時の生体反応に関する研究 13. 急性重症膵炎の病態の解析 14. ヘキ地医療における救急医療の研究 15. 救急医療システム作りの研究
高気圧環境医学	鎌 田 桂	1. 高気圧環境医学一般 2. 減圧障害に対する再圧治療

受験  
番号

( 一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ) で囲む

## 平成18年度岩手医科大学大学院医学研究科入学願書 ( 博士 )

平成 年 月 日

岩手医科大学長 殿

ふりがな

氏 名

貴学大学院医学研究科に入学いたしたく、所定の書類を添えて出願します。

生年月日	昭和 年 月 日生	本籍 (都道府県)		写真貼付
志望科目	第一志望	系	学	
	第二志望	系	学	
	第三志望	系	学	
入学資格	(出身大学学部名)			
		昭和 平成	年 月 日	卒業 卒業見込
現住所	〒 -			TEL ( ) - ( ) - ( )
試験・入学に関する連絡先	〒 -			TEL ( ) - ( ) - ( )
保証人	氏名			
	現住所	〒 -		
		TEL ( ) - ( ) - ( )		
	職業		続柄	

# 履 歴 書

区 分	年	月	日	記 載 事 項
学 歴				高等学校卒業
職 歴 (研究歴含)				
資 格	医師国家試験			第 回医師国家試験合格
	医籍登録			第 号をもって医籍登録
賞 罰				

## 健康状況申出書

身 長		体 重		kg	視 力	右	裸眼	矯正
								( )
						左		( )
主 な 既 往 症								
主 な 現 在 症								

# 志 望 理 由 書 ( 博 士 課 程 )

( ふりがな )	
志願者氏名	

( 本大学院医学研究科及び第一志望科目の志望理由を具体的に記載してください。 )

岩手医科大学大学院医学研究科

パソコン等を使用して作成する場合は、本用紙に直接または、本様式に準じて別紙 ( A 4 版 ) に作成して下さい。

平成 18 年 度  
岩手医科大学大学院医学研究科  
(博士課程)

受 験 票

受験番号		
氏名		
生年月日	昭和 年 月 日 ( 歳 )	
志望	専攻名	科目
第一志望	系	学
第二志望	系	学
第三志望	系	学

1. 受験番号欄以外は出願者にて楷書で記入すること。
2. 答案用紙には受験番号を明記し、氏名は記入しないこと。
3. この票は受験のとき必ず机上に置くこと。

入学検定料領収済  
医学部教務課長

## 大学院医学研究科（修士課程）

# 岩手医科大学大学院医学研究科学生募集要項 ( 修 士 課 程 )

## 1 募集人員 10名 ( 社会人特別選抜含む )

専攻名	専攻別学科目	専 門 科 目
医 科 学	先端医科学群	医用遺伝子工学 医用分子生物学 生体システム情報学 再生医学 医科画像工学 医用計測学 医科分子薬理学 病態制御学 生体防御学
	応用医科学群	環境・予防医学 人類遺伝学 消化器・代謝・血液病学 循環器・呼吸器病学 腎・泌尿・生殖器学 神経・運動・皮膚・感覚器学 臨床精神科学 周産期・成長発達科学

## 2 出願・入学資格

出願・入学できるのは次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者 ( 平成18年3月卒業見込みの者を含む )
- (2) 学校教育法 ( 昭和22年法律第26号 ) 第68条の2第3項の規定により、学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成18年3月までに修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者 ( 昭和28年文部省告示第5号 )
- (6) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (7) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
- (8) その他本学の大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

備考 1) 社会人特別選抜に願出できるのは、「2. 出願・入学資格」の各号のいずれかに該当する方で、医療関係分野、官公庁、企業等に勤務あるいは勤務予定の方です。

2) 社会人入学者に関しては、勤務等を勘案の上、カリキュラムを編成します。

### 3 出願期間

平成17年10月31日 から平成17年11月25日 まで。(必着)

### 4 出願手続

出願にあたって、受験希望者は予め第1志望の専門科目の責任者と連絡を取り、研究テーマ等についての説明を受けてください。

入学願書	本学研究科所定様式
卒業(見込)証明書、成績証明書	出身学校(学部)長の発行する所定様式の証明書
志望理由書	本学研究科所定様式
写 真	出願3ヶ月以内に撮影したもの2枚 ・無帽、上半身、正面、縦3cm×横3cmで裏面に氏名を記入 ・うち1枚は、入学願書に貼付
入学検定料	40,000円 郵送の場合は郵便普通為替にし、受取人指定欄は記入しないこと
受験許可書	出願時に医療関係分野、官公庁、企業等に在職中の方若しくは勤務予定の方は、雇用主からの受験許可書を提出(様式は随意)
受験票	本要項に添付してある受験票に 欄以外の項目を記載のうえ提出
受験票送付返信用封筒	定型封筒に宛先を明記し、430円切手(簡易書留料金)を貼付して提出 ただし、入学願書持参の方は不要

### 5 出願場所

岩手医科大学医学部教務課 〒020-8505 盛岡市内丸19番1号

### 6 試験期日および試験場

<一般選抜>

期 日	区 分	時 間	試験科目	試験場
平成17年12月9日	外国語試験	13:00~14:30	英 語	記念館9階2番講義室
	面 接	14:45~		第1志望の専門科目の研究室

- ・受験者は、試験当日午後12時30分までに試験場(記念館9階2番講義室)に集合してください。
- ・外国語試験は辞書の持ち込みを認めます。(ただし、医学辞書および電子辞書は不可)

< 社会人特別選抜 >

期 日	区 分	時 間	試験科目	試験場
平成17年12月9日	外国語試験	13:00~14:30	英 語	記念館9階2番講義室
	小 論 文	14:45~15:45		記念館9階2番講義室
	面 接	16:00~		第1志望の専門科目の研究室

- ・ 受験者は、試験当日午後12時30分までに試験場（記念館9階2番講義室）に集合してください。
- ・ 外国語試験は辞書の持ち込みを認めます。（ただし、医学辞書および電子辞書は不可）

7 受験票

受験票は、各志願者から提出された封筒で郵送します。

受験票は、試験場に必ずご持参ください。

8 合格の決定および発表

合格者の決定 学科試験および出身大学の成績を総合して判定します。

合格者の発表 平成17年12月21日 18時頃、本学学事掲示板に合格者の受験番号を掲示するほか、本人に合格通知書および入学手続書類を郵送します。

9 注意事項

願書受付後は、提出した書類及び入学検定料は、いかなる事由があっても返還しません。

郵送により出願する場合は、必ず書留郵便とし、封筒に「大学院医学研究科医科学専攻入学願書在中」と朱書してください。

10 入学手続

合格者は、平成18年1月16日 ~ 1月27日 午後5時までに、入学手続書類を医学部教務課へ提出してください。

〒020 - 8505 盛岡市内丸19番1号 岩手医科大学 医学部教務課

TEL 019 - 651 - 5111 (内線3221・3223) FAX 019 - 651 - 8055

11 出願書類等（様式）のダウンロード

出願書類等は、本学ホームページからダウンロードできます。

下記書類の提出に際しては、指定の用紙サイズを遵守してください。

入学願書	(A4サイズ)
履歴書	(A4サイズ)
志望理由書	(A4サイズ)
受験票	(官製ハガキ)

岩手医科大学ホームページ (<http://www.iwate-med.ac.jp/>)

# 岩手医科大学大学院医学研究科医科学専攻概要

## 1 目的および使命

本大学院は医学に関する学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を極めて文化の発展に寄与することを目的及び使命とします。

## 2 修業年限

修士課程 2年（標準修業年限）

ただし、優れた研究業績をあげたと認められた者については、1年以上在学すれば足りるものとします。

## 3 組織および専門科目

別表のとおりです。

## 4 履修の方法

学生は、所定の期間内に専門科目の責任者の指示により、次に定める科目を合計30単位以上取得しなければなりません。

単位取得の認定は、試験あるいは実習、実験報告によって行います。

1．基礎科目 10単位以上

2．専門科目 20単位以上

## 5 昼夜開講（大学院設置基準第14条による教育方法の特例）による履修及び研究

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっており、社会人が最新の医学知識・技術を学び、高度な医学研究能力を身に付けることを可能にするため昼夜開講制を採用しております。

昼夜開講制とは、夜間（18：00～21：10）や特定の時間（時期）に授業・研究指導の時間を設け、社会人が大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くするための制度です。

カリキュラムは、夜間、土・日及び社会人の多くが休暇等をまとめてとり易い夏季休暇期間等に設定し、単位を修得しやすいように配慮します（授業科目の履修は研究指導教員と十分話し合いその指示を受けてください）。

・カリキュラムについてご不明の点は医学部教務課にご相談ください。

時 限	授 業 時 間	備 考
1	8：50 ～ 10：20	通常の授業時間帯
2	10：30 ～ 12：00	
3	13：00 ～ 14：30	
4	14：40 ～ 16：10	
5	18：00 ～ 19：30	特例による授業時間帯
6	19：40 ～ 21：10	

### 【大学院設置基準第14条】

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

## 6 学位授与

本研究科に2年以上在学し、所定の単位を取得し、論文審査および学位論文を中心とした最終試験に合格した者に対して修士（医科学）の学位を授与します。

## 7 学納金

学納金は次のとおりです。

- 1．入学金           200,000円（入学時のみ）
- 2．授業料           425,000円（年額）
- 3．施設整備費      300,000円（入学時のみ）

## 8 奨学金制度

日本学生支援機構大学院奨学金月額88,000円（平成17年度現在）および岩手医科大学大学院奨学金（月額25,000円）の制度があります。

## 組織および専門科目内容

## 先端医科学群

専門科目	責任者	概要
医用遺伝子工学	増田友之	生命現象は遺伝子の働きに基づいて発現する。これを理解する為の基礎知識・技術である、DNAと遺伝子、サザンブロット、PCR-SSCP、クローニング、シーケンシング、ハイブリダイゼーション、遺伝子産物の機能探求法、遺伝子工学の臨床応用について学ぶ。
医用分子生物学	堀内三郎	生命現象を分子レベルで明らかにすることによって、疾病の理解を深めることを目的とする学問である。ここでは、細胞の基本的機能を、その構成分子の合成・分解のネットワークシステムという視点から学ぶ。即ち、DNA複製、転写調節、機能RNA、翻訳後修飾、プロテアソーム等について、個々の機能の特徴とこれらの間の統合・調節について具体的に解説する。
生体システム情報学	佐々木和彦	基本的な細胞内情報伝達経路とその機構、細胞間情報伝達、システムとしての内臓臓器や脳における情報伝達と機能制御機構について学ぶ。即ち、脳・感覚器の各部位の機能発現の基盤となる神経シグナル伝達の機構並びに神経回路網の活性化と脳の高次機能（意識、記憶、学習）発現について解説する。また、各種臓器（器官）のシステムとしての生体制御機構について学ぶ。
再生医学	人見次郎	個体と臓器の発生、幹細胞による組織と臓器再生の基本概念について学ぶ。また、系統発生学的見地からヒトの個体差について考え、また人体のなりたちを比較解剖学の立場から理解する。さらに、生体を構成する細胞並びに細胞が造り出す物質について、その超微細構造を解説し、細胞の生命現象を形態学的観点より掘り下げて解説する。
医科画像工学	江原茂	従来のX線診断・測定技術の基礎と応用に加えて、CTやMRIなどのコンピュータ断層撮影の画像処理の基礎と応用について学ぶ。また、蛍光標識や蛍光タンパクを用いた組織レベル、細胞レベルでの生体現象観察技術とその医学への応用について学ぶ。
医用計測学	諏訪部章	医学的な計測は生化学的原理、物理学の原理、生物学の原理等、様々な分野の原理や手法を用いて行われる。主要な原理と手法とその医学への応用について学ぶ。
医科分子薬理学	平英一	薬理学は薬物の生体に与える作用とその作用機序を明らかにするとともに、その作用を利用し、生体機能を明らかにする学問である。分子・細胞・組織・生体レベルにおける薬物の作用機序と生体の反応機序を解説する。
病態制御学	菅野祐幸	生理的状态の各臓器の構造、機能を理解すると共に病的状態での各臓器の変化、原因、経過、転帰あるいは死因を明らかにする学問である。種々の疾患の発生機序と病態を理解し、疾患発生機序の解析能力の修得を目指す。

専門科目	責任者	概要
生体防御学	佐藤 成大	感染防御としての適応免疫応答の仕組みで中心的な役割を担っているリンパ球の活性化と免疫応答、自然免疫から特異的獲得免疫へ至る連携、さらにアレルギー、自己免疫、腫瘍免疫、臓器移植での組織適合性、免疫不全に至るまで幅広い領域を理解する。また細菌、ウイルス、真菌などについて、その病原性、感染経路、宿主の反応、化学療法、予防ワクチンなどを学ぶ。医学的に重要な微生物について系統的に学習し、微生物の基本的な取り扱い方、新しい技術や考え方を学ぶ。

応用医科学群

専門科目	責任者	概要
環境・予防医学	坂田 清美	21世紀の社会は環境が重要なキーワードとなる。特に環境の変化と健康のつながりを理解することは、予防医学の実践において意義が深い。環境を地球環境と身近な環境に分け、環境の変化と健康変化の関係について学ぶ。また、各種疾病の病因論解明における疫学の役割を理解し、既存の病因論や関連論文を疫学的に評価・理解できる素養を養う。各種の疾病が自然条件以外にも社会・文化的条件の影響を受けて発生し経過することを学ぶ。疾病の発生や悪化を予防することの重要性、即ち医学における予防医学の必要性を理解する。
人類遺伝学	青木 康博	近年ヒトゲノム計画・遺伝子治療・生殖医学などの進歩により、医学のあらゆる分野で遺伝学を抜きにしては診断・治療技術の発展は望めなくなってきた。一方、法医学分野では従来より集団遺伝学・遺伝統計学の知見を背景に、分子生物学的手法を用いた個人識別法開発が進められている。本科目では遺伝学の基本的概念を修得するとともに、これらの実務的経験に即した形でDNA解析技術およびデータ処理法を学ぶ。さらにゲノム、タンパクの多型が生ずる原因やその影響、遺伝子発現の調節機構とその疾患との関連を理解する。
消化器・代謝・血液病学	加藤 章信	消化管、肝・胆・膵疾患、糖尿病や高脂血症を中心とする代謝疾患ならびに血液疾患の病因、病態生理、症候、画像、臨床検査、診断、鑑別疾患、治療および予後などについて総合的かつ系統的な知識の修得をはかり、これら疾患全体の診療と治療に関する思考能力を修練させる。
循環器・呼吸器病学	井上 洋西	呼吸・循環系は、生体のエネルギー産生に必要な酸素を組織に供給する上で、欠くべからざる臓器である。これらの臓器の不全は、生命活動を容易に障害し、直接生死を左右する。このため呼吸器・循環器の医療は救急医療を含めて、生命維持の根幹をなす極めて重要な部門である。生命の危機管理の指標となる Vital sign の中に呼吸・循環器に関する項目が少なくないのもこのためである。よって全ての医療関係者に求められる呼吸器・循環器領域全般の基本知識、病態生理学の基本、臨床薬理、さらには外科的対応（治療法）について講義し、十分な理解と共に、その応用力と実践力を養う。

専門科目	責任者	概要
腎・泌尿・生殖器学	近田 龍一郎	<p>腎尿路および男性生殖器の解剖および機能について理解すると共に、そこから発症する先天的あるいは後天的な疾患について知識を深める。腎尿路・男性生殖器の悪性腫瘍は、発生臓器によりその生物学特性が異なっており、治療法や治療後の管理法について学ぶ。先天性腎尿路疾患は小児期・青年期における腎不全の原因疾患として最も重要であり、その早期診断や腎障害進展予防について理解を深める。腎不全は腎機能の廃絶により起こるが、その原因は多様であり、治療法も血液透析、持続外来腹膜透析、腎移植などがある。腎機能保全のための治療法や透析・腎移植について知識を深める。女性の外性器および内性器より発生する腫瘍の生物学的性格をよく知りその診断、治療さらには治療後の管理の考え方について知識を深める。また、生殖および妊娠の経過、さらにはそれに続く分娩、産褥と胎児、新生児との関連性について、生理、内分泌学的知識を習得する。さらに産婦人科的内分泌臓器の特徴をよく知り、その内分泌学的動態についても学ぶ。</p>
神経・運動・皮膚・感覚器学	寺山 靖夫	<p>脳、運動器、感覚器の代表的疾患について、内科学的、外科学的な基本的知識を学び、その知識を基に実践につながる応用力、未解明分野を研究する力を身につける。</p>
臨床精神科学	酒井 明夫	<p>以下の点について知識と技能の修得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 知覚、思考、記憶、知能、感情、意志、意識、自我意識など、各精神機能の障害としての精神症状</li> <li>2) 統合失調症、気分障害、気質的精神障害（痴呆や症状精神病）、神経症性・ストレス関連性障害、人格障害、知的障害、精神作用物質による障害、などの精神障害</li> <li>3) 精神医学的薬物療法、精神科救急医療、多文化間精神医学などの精神科臨床</li> <li>4) 精神医療倫理と精神医学史</li> </ol>
周産期・成長発達科学	嶋田 泉司	<p>成長と発達の途上にある小児を対象として、その身体と心の問題を取り扱うので、その領域は極めて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められる。そのため、妊娠、分娩、産褥の生理、病理はもとよりそれに関連して胎児、新生児さらには思春期までの生理的、内分泌学的知識をも習得する。</p> <p>下記の研究テーマについて、関連医学知識と研究方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胎児の発達・発育評価に関する研究</li> <li>2) 出生前診断に関する研究</li> <li>3) 新生児の呼吸循環適応とその異常に関する研究</li> <li>4) 肺サーファクタントの研究</li> <li>5) 小児の成長と神経発達の研究</li> <li>6) 小児の心理学的発達の評価に関する研究。</li> </ol>

受験  
番号

( 一般選抜 ・ 社会人特別選抜 ) で囲む

平成18年度岩手医科大学大学院医学研究科入学願書  
医科学専攻(修士課程)

平成 年 月 日

岩手医科大学長 殿

ふりがな

氏 名

貴学大学院医学研究科に入学いたしたく、所定の書類を添えて出願します。

生年月日	昭和 年 月 日生	本籍 (都道府県)		写真貼付
志望科目	第一志望	学群	学	
	第二志望	学群	学	
	第三志望	学群	学	
入学資格	(出身学校名)			
		昭和 年 月 日	卒業見込	
現住所	〒 -			TEL ( ) - ( ) - ( )
試験・入学に関する連絡先	〒 -			TEL ( ) - ( ) - ( )
保証人	氏名			
	現住所	〒 -		
		TEL ( ) - ( ) - ( )		
	職業		続柄	

# 履 歴 書

区 分	年	月	日	記 載 事 項
学 歴				高等学校卒業
職 歴 (研究歴含)				
資 格				
賞 罰				

## 健康状況申出書

身 長		体 重	kg	視 力	右	裸眼	矯正
							(      )
					左		(      )
主  な 既 往 症							
主  な 現 往 症							

# 志 望 理 由 書 ( 修 士 課 程 )

( ふりがな )	
志願者氏名	

( 本大学院医学研究科及び第一志望科目の志望理由を具体的に記載してください。 )

岩手医科大学大学院医学研究科

パソコン等を使用して作成する場合は、本用紙に直接または、本様式に準じて別紙 ( A 4 版 ) に作成して下さい。

平成 18 年 度  
岩手医科大学大学院医学研究科  
( 修 士 課 程 )

受 験 票

受 験 番 号		
氏 名		
生 年 月 日	昭和 年 月 日 ( 歳 )	
志 望	学 科 目	科 目
第 一 志 望	学 群	学
第 二 志 望	学 群	学
第 三 志 望	学 群	学
1. 受験番号欄以外は出願者にて楷書で記入すること。 2. 答案用紙には受験番号を明記し、氏名は記入しないこと。 3. この票は受験のとき必ず机上に置くこと。		

入 学 検 定 料 領 収 済  
医 学 部 教 務 課 長